

童

2017年1月27日。

一面真っ白な世界。サンクゼールのレストランの前の南斜面が全面真っ白。子供たちは、思う存分、ウサギやキツネ以外遊ばない世界を駆けまわっています。一気に降りました。一気に積もりました。切ないぐらい酷使してきた除雪作業のご褒美が、この美しさと楽しさを運んでくれたのです。でも、身の丈に合った雪であってほしいというのも正直な気持ちです。

先日のそり滑りマルシェ。あの大雪にもかかわらず、久しぶりに子供らしいエネルギーを見て感動しました。降りしきる雪の中、文字通り朝から晩までずっとそり遊びしている子供たちがいたのです。それもお昼も食べないで!! ずっと遊び続け、気付いたら2時ごろ。ケーキなどを口に入れ、再びそり遊びに行きました。これはすごかったです。雪の魅力、そして親の魅力（それを見守る親の度量）、子供のエネルギー。見ていてとても幸せで、まさに自分の小さい頃の世界を見ているようでした。

これだけ短期間にこんなに降り積もった雪は、記憶にないと75歳の信濃町の住む叔父が言っていました。大地開園後、この場所でこんな短期間に積もった雪は初めてでした。雪で臨時休園したのも初めてかもしれません。それだけに、風景が一変して、見事な真っ白な雪の世界に変わったこの環境は、何十年に一度かもしれません。それだけに、この環境を十分享受して、せつせと毎日雪遊びに興じようと思います。一気に降った分、一気に溶ける可能性もありますから。さて、これから、子供たちの顔がどこまで黒くなることやら!?



【ピアノの運命】

妻が28年前に退職金でピアノ（現在のグランドピアノ）を購入しました。小さい頃にピアノを弾きたかったが、経済的に無理だったので、その夢を叶えるのも一つの要因でした。同時に長男の雄飛が生まれ、長男を連れてピアノのレッスンにもしばらく通いましたが、長女の出産やその後の英語教室の仕事などで、ピアノからは離れました。

大地開室とともに、ピアノはホールに移動され、約5年ほど活躍しましたが、シュタイナー教育の学びとともに、子供たちから離れ、2階へ移動しました。長女が小学生から中学生までピアノを習っていたので、ピアノは少しは愛されてましたが、その長女も絵を描いたり、料理やお菓子作りにも膨大な時間をかけていました。

そして、いつの間にかピアノは、失礼ながらお邪魔な存在になり、いつの間にか、ピアノの上は、書類や本が置かれ、その上の空間には、洗濯物が干されるといってもない世界に引きずり込まれて、時を過ごしました。

そして、次男の雄河が、昨年からはピアノを始め、電子ピアノで十分だと思っていましたが、予想外に彼はピアノに魅了され、電子ピアノじゃ不十分だと言うようになりました。長女も次男も「お父さんに言えば、何とかなるかもしれない」「本気になれば、すぐやっちゃうよ」という言葉に一発触発!! 「さすが、俺の性格をわかっちゃういるじゃねえか」「そうそう、ハードルが高いほど燃えるんだよね」「久しぶりの子供たちからのリクエスト!!」「親としての見せ場だね」（最近では、子供たちが大人になり、自立して親以上のことを自分たちでクリアしてしまう）

ピアノの移動場所、さすがに自分では移動も調律もできないし、クリーニングもすごそうだし。移動先の部屋の片づけ、移動業者、調律師の選定。移動作業は、今後に生かすためにしっかりと見極め、さすがに調律は畏れ多く、2週間の入院となる。ピアノの中から、ハサミや100円玉や洗濯ばさみなどが出てきた。さすがに、ネズミはいなかったのが幸いか。弦や隅々までほこりがびっしりたまり、美しかった表面の木目もくすんでいた。調律師さんにコツを聞いて、自分でクリーニングだけは挑戦。コンプレッサーを持ち込み、埃を払い、外部は、オーガニックな松の実洗剤でこすりまくって、美しさがよみがえった。

さて、ピアノが退院するまでの2週間。折からの年末年始。子供たちのキャンプは、雄飛たちがやっており、他の子供たちは、自立しているの、夫婦2人。一発奮起。大掃除を兼ねて、2階のリニューアル!! ピアノが移動したので、まずリビングから他の部屋へと約4日間。気合を入れてリニューアル。その勢いで、正月元旦から、ホールの未満児専用部屋の設計施工。次々と、大工さん インテリアコーディネーター、裁縫（ミシン）など、クリエイティブな日々が続きました。

ピアノの中身の退院を待つばかりの日。ここをどうせなら音楽室にと思立ち、大地にあった楽器やギターやオルガン運び込み、どうせならピアノホールのように、スポットライトもあれば雰囲気最高などと考え、更にイメージアップして施工が続き、カーテンを縫い、床や壁を磨き、棚をつけ自己満足の世界。「こけら落としで誰かにピアノを弾いてほしい」「記念コンサートだな」「大人のピアノサロンもいいな」「そうだ、Kさんが最高かな」などと考えていたその日の夕方、ポルダリングにKさんが来るということ。「これは流れたぞ!!」ということで、即座にピアノ室へ案内して、即断即決と相成りました。ピアノが無事退院して、長年のブランクから見事によみがえってきた。早速、Kさんに弾いてもらい、更に弾みがつきました。

おまけに、暖房。使う頻度と時間が少ないから石油ストーブで十分だと言い訳してしばらく焚いてみましたが、しっくりいきません。薪ストーブやペレットストーブの中古を探しても、それ以上に施工するエネルギーも必要だし。だんだん素敵になる部屋を見ながら、やはり石油ストーブじゃダメだ!! 妥協できない!! センス悪すぎ!! と叫んだ夕方、Rさんの子供を自宅まで送っていき、その倉庫に車を入れた瞬間、薪ストーブ、煙突、タイルなどが目に入った。すぐに交渉成立して、その夜には、筆筒が出され、押入れに、素敵な暖炉風のタイルが敷かれた。コンクリートを練り、眼鏡石を作り、壁に穴をあけ、煙突工事を済ませ、クリーニング塗装をして新品になった薪ストーブが設置され、ようやく、サロンと名付けても許されそうな雰囲気となった。そして、ピアノサロン開校との道筋があつという間に進んだのでした。

ピアノ一台で、全てが変わりました。子供たちがどんどん自立していく中で、精神的なもののばかりでなく、家や部屋も変わっていきます。2部屋は、アカデミーと音楽室になりました。私たち夫婦は、物忘れや置忘れが多くなってきたので、一部屋で十分です。そして、子供がいなくなったので、自分たちの身の回りの始末などに精を出せるようになりました。身の回りを美しくしておくことはとても落ち着きます。増してや、ピアノサロンなどで2階への出入りが多くなりますから、あちこち覗かれたら危険極まりないです。だからキレイにする。この他力本願も大切です。

身の回りがきれいになったもう一つの利点。ゆっくりと本が読めること。夕食が夫婦2人、夕方7時前には終了してしまうので、薪ストーブに向かい、揺り椅子に腰かけ読書開始。静かな至福の時間開始。昨年末から、アーサーランサムにはまり、最後の12巻目が終了しました。ナンシーやベギーをはじめ、登場する子供たちの日々の豊かな暮らしが、真の意味で理想とする子供たちや人間にとっての、大地の目指す暮らしそのものだと確信できたことは、ピアノのおかげです。そんなピアノさんに、これから長年の不孝を許してもらい、ピアノ孝行をしていきます。